

## 2023 外国人児童生徒等教育研修（文科省「モデルプログラム」対応）

公益社団法人日本語教育学会開発「モデルプログラム」<https://mo-mo-pro.com/>

（文部科学省「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」（2017～2019年度））

### オンライン研修(ウェブ会議システム zoom)

研修日程	受講対象者	目指す資質・能力	研修で目指す具体的な力 (求められる具体的な力より)	内容構成(A～N)	小項目
オンライン1 6月18日 (日) 10:00- 12:00	小学校年齢の子どもへの日本語・学習支援者 経験:1～2年	・捉える力(子どもの社会的背景の理解) ・育む力(日本語・教科の力の育成) ・つなぐ力(学校づくり)	オ 外国人児童生徒等教育に関する施策・制度を、自ら情報を収集して理解することができる。 サ 日本語に関する知識を生かして、子どもの日本語の力に合わせた日本語や教科の指導・支援をすることができる。 テ 外国人児童生徒等教育を学校の教育課題に位置付け、学校全体取り組むよう働きかけることができる。	A 外国人児童生徒 等教育の課題 B 外国人児童生徒等教育の背景・現状・施策 C 学校の受入れ体制 D 文化適応 E 母語・母文化・アイデンティティ H 子どもの日本語教育の理論と方法 I 日本語指導の計画と実施	グローバル化と外国人児童生徒等、外国人児童生徒等教育施策、校内の指導体制、教員・支援者間の連携、子どもの文化適応、アイデンティティ、日本語指導の内容(シラバス)、日本語プログラム(基礎日本語)
オンライン2 9月10日 (日) 10:00- 12:00	中学校年齢の子どもへの日本語・学習支援者 経験:1～2年	・捉える力(子どもの社会的背景の理解) ・育む力(日本語・教科の力の育成) ・つなぐ力(学校づくり)	キ 子どもの暮らしを、地域の多文化化や外国人住民支援の状況に関連付けて把握することができる。 サ 日本語に関する知識を生かして、子どもの日本語の力に合わせた日本語や教科の指導・支援をすることができる。 ナ 地域の支援活動団体等、学校外の様々な関係者と連携し、支援体制を構築することができる。	A 外国人児童生徒等教育の課題 D 文化適応 E 母語・母文化・アイデンティティ H 子どもの日本語教育の理論と方法 I 日本語指導の計画と実施 k 社会参加とキャリア教育	文化間移動とライフコース 文化接触 母語・継承語教育 学習活動 日本語のコース設計の手順 キャリア教育
オンライン3 12月23日(土) 10:00- 12:00	就学前年齢の子どもへの日本語・学習支援者 経験:1～5年	・捉える力(子どもの社会的背景の理解) ・育む力(異文化間能力の涵養) ・つなぐ力(地域づくり)	ア 子どものシグナルを見逃さず、文化間移動と発達の視点をもって、その困難さを理解することができる。 ソ 子どもが新しい環境に適応することを支援できる。 チ 子どもの文化間移動の経験や言語的文化的多様性を価値付け、周囲の子どもの学びに結び付けることができる。 ヌ 子どもの学びが広がり連続性をもったものになるように、地域の他校、或いは保幼小中高の連携を進めることができる。	E 母語・母文化・アイデンティティ F 言語と認知の発達 L 保護者・地域とのネットワーク	母語と第二言語 子どもの言語発達 保護者の教育参加の促進 多文化家族 地域・専門家との連携・協力



対面研修 会場:東京学芸大学 講義棟

研修日程	受講者	目指す資質・能力	研修で目指す求められる具体的な力	内容構成(A~N)	小項目
対面1 7月30日 (日) 13:00- 16:00	小中学校 年齢の子 どもへの 日本語・学 習支援者 経験は問 わず	・捉える力(子どもの 実態の把握) ・育む力(日本語・教 科の力の育成) ・変える/変わる力 (教師としての成長)	ウ 子どものことばの力を、日本語と母語の両言語を 視野に入れ、言語能力の多面性に留意して測定したり 評価したりすることができる。 サ 日本語に関する知識を生かして、子どもの日本語 の力に合わせた日本語や教科の指導・支援をすること ができる。 フ 外国人児童生徒等教育を通して、自身のものの見 方を批判的に問い直すことができる。	F 言語と認知の発達 G 日本語の特徴 H 子どもの日本語教育の理論と方法 I 日本語指導の計画と実施 N 成長する教師	子どもの言語発達 言語能 力の捉え方(DLA)、外国語 としての日本語、日本語指 導の内容(シラバス)、日本 語プログラム(日本語基礎) 省察的実践家
対面2 8月8日 (火) 13:00- 16:00	小中学校 年齢の子 どもへの 日本語・学 習支援者 経験は問 わず	・捉える力(子どもの 実態の把握) ・育む力(日本語・教 科の力の育成) ・変える/変わる力 (教師としての成長)	エ 認知面の力と教科等の学力を、年齢的な発達や学 習経験を考慮して捉えることができる。 セ 学校内外の生活・学習に結び付けて、日本語や教科 の指導・支援、内容(教科等)と日本語を統合した指導・ 支援をすることができる。 ホ 実践の質の向上のために、教師集団で経験を共有 したり相互に研修を行ったりすることができる。	F 言語と認知の発達 H 子どもの日本語教育の理論と方法 I 日本語指導の計画と実施 J 在席学級での学習支援 N 成長する教師	言語能力の測定法 (DLA)、言語教育の考え方 と方法(内容と日本語の統 合学習/JSLカリキュラ ム)、指導計画の作成、学習 参加のための支援、 専門性の向上
対面3 8月9日 (水) 13:00- 16:00	小中学校 年齢の子 どもへの 日本語・学 習支援者 経験は問 わず	・捉える力(社会的背 景の理解) ・育む力(日本語・教 科の力の育成) ・変える/変わる力 (多文化共生の実 現)	ク 子どもがどのような自己像を描き、どのように社会 参加し自己実現ができるかを、社会の変化と共に展望 することができる。 セ 学校内外の生活・学習に結び付けて、日本語や教科 の指導・支援、内容(教科等)と日本語を統合した指導・ 支援をすることができる。 マ 外国人児童生徒等教育の経験を自身の教師として の成長として意味づけることができる。	H 子どもの日本語教育の理論と方法 I 日本語指導の計画と実施 K 社会参加とキャリア教育 L 保護者・地域とのネットワーク N 成長する教師	日本語プログラム(内容と 日本語の統合学習(JSLカ リキュラム))、指導計画の 作成、模擬授業、社会参加 とことばの力 教師としての成長